

## 1.ディレクトフォースについて

ディレクトフォースは最初に近藤玄大さんから義手についてのお話があって、その後各班に笹川平和財団の方々がいらっしゃり、お話をするという流れで行われた。ディレクトフォースで印象に残ったこと、学んだことは2つある。

1つ目は、近藤さんのお話で「マイナスを見方を変えてプラスにする」ということである。これまではいかに腕がないことを隠していくかを重視している企業が多く、実際世の中も腕がないならあるように見せることが普通だという考えになっていたように思う。しかし、近藤さんの様に、腕がないからこそできることを考え、義手にもデザイン性を求めることで、腕がない＝マイナスというイメージを払拭できると思う。もしかしたらカッコいい義手を見て、羨ましいと思う腕がある人さえ出てくると思う。この「見方を変える」ということは日常生活を送る上で他のことにも使えることである。例えば、数学を解いている時。分からないと思ったら違う式を考えたり、違う辺に注目したりすることで正解が見えることも沢山ある。他にも家事をする時や、ゲームをしている時でさえも当てはまると思う。私は一度決めたら周りが見えなくなるタイプだから、見方を変えることを意識して見たいと思った。

2つ目は「これからはグローバル化の時代だ」といったような言葉をよく聞くが、実際は私たちが気づいてないだけで既にグローバル化はされているということである。例えば、LINEは韓国の企業だし、日産も株の43%はフランスの企業であるルノーが保有している。もう既に世界はかなり小さくなっているのである。グローバル化が進むことで海外の製品や人材を手に入れやすくなるという利点がある。しかし、そうなることによって、安く製品を製造できる国とそうでない国との格差が生まれ、安い人件費で済む国の人々ばかりを採用する企業が増えることで、その国の人々の働き口が無くなってしまったりするという欠点も生まれてしまう。利点を伸ばし、欠点を無くすためにはグローバル化が既にされていることに早く気づき、対策をすることが大事なのだと学んだ。

ディレクトフォースでは、普段はお話できないような、人生経験が豊富だったり、考え方が豊かだったりする方々とお話ができ、物事の捉え方が深くなったと感じられた。

## 2.企業訪問について

私たちの班は二高の生徒がまだ行ったことがない国際連合広報センターというところに訪問させていただいた。国連大学の図書館、エリザベス・ローズ国際会議場、ウ・タント国際会議場を見学させていただいた。図書館には電子化されるまでの全ての国際連合で話

し合われた内容が残っている。それらは当たり前のように全てが英語で示されていた。国をまたいで行われる会議や仕事では英語はペラペラで当たり前であることを実際に見ることで百聞は一見にしかずの通り、再認識できたと思う。

施設見学の後、国際連合広報センターの仕事内容についてのお話があった。国際連合広報センターでは、国連の文書を和訳したり、学生フォトコンテストという世界規模のコンテストを上智大学と共に開催している。日本語は公用語ではないため、国連の文書は日本語に翻訳されない。世間に国連で行われていることを知ってもらい、関心を持ってもらうためにも国連の文書を和訳するということが大事なのだというお話や、フォトコンテストを行うことで若い世代に関心を持ってもらったり、国家間のつながりを強くしたりしているという話をしていただいた。世界規模になると、文化や考え方が違う国ばかりなので、それらの国々が納得しあって平和に暮らすために沢山の取り組みを行っていることが分かった。5000円募金するだけで、アフリカの子供一人分の給食費になるらしいので、私もそういう小さいことから始めてみたいと思う。

### 3.OB・OG 座談会について

座談会では4人のOB・OGの方々のお話を聞くことができた。そこで4人の方々に共通していたことが「大学は偏差値で決めるのではなく、将来何をしたいかで選ぶべきだ」ということである。単純に偏差値が1番高いからという理由で東京大学に進学しても「東京大学に進学する」という目標を達成したことに満足してしまい、次の目標を見失ってしまう。それではせっかく受験勉強をして合格できた意味がなくなってしまう。だから、東京大学以外でも自分のやりたいことができる大学を選び、将来につなげることが大事なのだと教えていただいた。これは、東京大学見学の時に案内していただいた方も言っていた。やはり、大学に入ることが大事なのではなく、卒業し、社会人になった時自分のやりたいことをやっているか、目標を見失わないでいるかが大事なのだと学ぶことができた。また「勉強ばかりやるのではなく、部活や友人関係にも打ち込むべきだ」ということも4人の方々が共通して教えてくれたことである。色々な経験を積んでおくことでより密の濃い高校生活が送れるし、友人と協力することで得られることも多いからだという。わたしも1人でやるよりも2人や3人でやる方が良いことも沢山あると思うのでとても共感できた。

実際に同じ高校に通っていたの方々のお話を聞くことでより参考にしやすかったり、実践しやすかったりするのととても良い時間になったと思う。

#### 4. 東京大学見学について

東京大学を見学したり東大生の方々の話を聞いた後、模擬授業を受けさせていただいた。見学をして、大学は小・中・高とは比べ物にならないほど大規模で、より専門的なことを学べる環境だと感じた。施設がとても整っていて、こんな環境で学べることは素晴らしいと思った。特に興味を持ったのが総合図書館だ。約 118 万冊もの本が蔵書されていて学習するには十分すぎる環境だと思った。私は幼い頃から家の近くの図書館によく行っていたので、総合図書館がとても魅力的に感じられた。東大生の方々の話では進路の決め方についてのお話をさせていただいた。このお話でも、OB・OG 座談会でさせていただいたお話と一緒に、将来を見据えて進路を選択することが第一だとおっしゃっていた。やはり進路を選択することにおいて大事なものは偏差値ではなく、将来やりたいことから逆算して考えることなのだと強く感じる事ができた。その後、模擬授業を受けさせていただいた。

私は文系なので法学部の授業を体験させていただいた。分かってはいたことだが、内容が高校の政治・経済でやっていることよりも格段に難しく、ペースも早いため、話を理解するだけで精一杯だった。実際の大学生は話を聞くだけでなく、この難しい内容を予習、復習しているのだと思うと、すごいと思うと同時に自分にもできるようになるのか不安にも思った。だからこそ、勉強に集中できる環境が整っていることが大事なのだと実際に体験することで再認識できた。

#### 5. まとめ

私は、まだ行きたい大学がなく、将来の見通しができていなかったため、少しでも参考になればと思い、東大研修に参加した。準備の段階で、中学校とは違い、自分達でアポを取るなど、先生に頼るのではなく、自分たちの力でやることが多いと感じた。アポを取るのは大変だったが、自分達の行きたい所に行け、礼儀も身についたと感じたので、とても良い経験になったと思う。東京大学という、日本の大学の頂点に位置する大学に実際に通っている方々の話や、世界の最先端に行く方々の話を聞くことで今までの価値観だけでなく、さらに深い考え方を学ぶことができた。最初は参加しても何も得られなかったらどうしよう、といった不安があったが、行ってみるとディレクトフォースから東京大学見学まで全ての企画で新しい考え方を学んだり、自分の考え方を深めたりすることができ、とても良い経験になった。